

銃 砲 史 研 究

第 70 号

有馬成甫博士の著書

および論文集紹介(二〇)

山 田 太 郎

明治維新の銃砲戦力の研究(六)

南 坊 平 造

昭和50年6月

銃 砲 史 学 会 編

五 銃砲史研究（続）

「上海事変の科学戦非科学戦」

昭和七年八、九、一〇月「科学知識」第一二巻第八、九、一〇号

「今日の科学は日進月歩である。而してその進歩の先端を行くものは恐らく何時の時代に於ても兵器一戦の具であろう。今日の戦法は既に昨日の戦法ではない。全く面目を異にしたものである。昨日の新鋭武器は今日早や後方に廻はされると云ふのが、現下の科学進展時代に於ける兵器の実状である。」そして上海事変は現在における最も先端的な科学戦であった、と前述されている。支那人の科学は科擧の学問すなわち経学、古典等広い意味での文学であって、最近では日本語をそのまま入れて摩登的（Modern）として使っている。すなわち一種の魔術的なものと解されているのである。

活躍したのは水上機母艦「能登呂」の水上機で列車砲攻撃、敵飛行場の爆撃等に功績があった。約一ヶ月間に九〇〇個の爆弾、爆薬で二〇万キロのものを投下したのである。敵機は米陸軍中尉予備役ロバートの操縦するF4B1であった。また艦上機母艦「加賀」「鳳翔」の艦上機も一五〇浬から発進して笈橋飛行場を爆撃している。

陸戦では装甲自動車（海軍二台、陸軍四台）が役立つた。

敵軍の兵器と言えば、日本軍の持つておらぬ三五乃至四〇ミリ高射機関砲、七糎半と一五糎迫撃砲があり、手榴弾を多く使っている。この手榴弾について、博士は「兵卒の全数に小銃が行き渡らないのと天性投石を好む国民性に好適の兵器であるからであろう。」と分析されている。また地雷について、「地雷を使うのは

支那において發現した最も古き火器の一種であろう。而してその原始形式は既に宋元時代よりあったと思われる。」と記された。

ついで要塞の備砲が三〇年前の製品であったこと、文久二年に創設された江南機器局（造兵廠の意）が革命によって破壊されたことによって新兵器の供給が滞つたことなどを述べ、「余は科学戦を書くつもりで斯んな非科学的なところ迄来てしまった。これ以上は支那文学だ。筆を擱かう。」と結んでおられる。

「苗頭語原考」 昭和七年一二月

「有終」第一九卷第一二号

苗頭とは教範の示すところでは「苗頭角トハ横尺零ノ照準面ト横尺ヲ調ヘタル照準面トノ交角ヲ謂ヒ苗頭角ニ対スル横尺ノ分面ヲ苗頭ト謂フ」とあるが、博士が海軍兵学校生徒の時語原を質したところ、「安式H型照準器に於てその照門を見通した形は恰かも苗字の頭部即ち草冠りに似て居る依つて之を苗頭と称するのだ。」との答であつたという。

その後 博士が兵学蘭書を読まれるに當つてこの解決が得られたので、海軍軍人の集りの機関誌に投稿されたものである。

引用された古書およびその箇所はつきのとおりである。

嘉永六年 上田仲敏訳 砲術便覧

「左右ニ苗頭ヲ生シ命中殆難ケレバ也」

嘉永七年 木村重周訳 杉田成郷閣 砲術訓蒙

「苗頭ニ二般アリ」苗頭表も掲載

慶応二年 内藤類次郎訳 奥氏砲論

安政元年 天文台訳員訳 海上砲術全書

「弾ノ行道ハ定理ニ随ヒテ苗頭アルコトナシ」

嘉永五年 大塚同庵訳 増補煩砲射擲表

「諸砲苗頭表」

安政三年 上田帯刀編 射擲試効表

「最大苗頭」

これらの苗頭なる語は今日の海軍で使うそれとは異なり、平均弾着点よりの前後または左右の偏差量を意味するものであった。そこで最初の訳はどうかという点が問題となり、博士は、杉田成郷が最初の訳者であろうと推察されている。そして「前記の二原書即ちカルテンの海上砲術全書及オーフスラーテンの砲術訓蒙は幕末砲術の二大権威書であったが、その感化は独り幕末に止まらずして、明治初年に及び、延いて明治の海陸軍砲術の基礎を為して居る。故に今原語を対照する場合には、カルテンの砲術書を以て行ふを最も必要とし、且之を以て規準とすべきであるふと思ふ。今日に於ても用語の如きは、杉田成郷等が天保末年に苦心慘愴して制定したるものが、敢然として使用せられつつある事実に鑑み、吾人は先人の功勞を多とせなければならぬ。」と結んである。

「江戸時代における雷汞の研究」

昭和七年一二月「中外医事新報」一一九〇号

和七年一〇月一二日、日本医史学会一〇月例会で講演されたものを掲載したものである。雷汞は水銀の雷

管の主成分として用いられるようになって、火器は躍進的に発展したのである。

「欧州での雷永の発見はほとんど偶然の名譽を担つておるものはスコットランドの Rev. Alexander John Forsyth, F.R.S. という僧官で、彼が一八〇七年（文化四年）四月一日付を英国の特許局に「火器其の他に於て火薬を爆發させる起爆薬としての雷永の応用」なる項目を登録したときに始る。」他に数名の申出があつたが、結局は容れられたかつたという。しかしこの発明は陸軍の採用とはならず、漁銃に應用されたのみであつた。一八一六年（文化一三年）に米國フイラデルフィアの銃工 Joshua Shaw なるものが銅の雷管を考案製出するに至つて初めて軍用となつた。一八三九年（天保一三年）各国軍隊は争つて雷管式を採用することにたり、オランダ陸軍は一八四一年（天保一二年）新式雷管銃を製作交付した。

日本で雷永が研究されたのは、この頃尾州藩の御抱医師吉雄常三が研究し「粉炮考」を著わしたときに始まる。彼は天保一四年五月二日、自己の製造した雷永を瓶に入れ、その蓋をなさんとして爆發し、破片で動脈を切り出血多量で死んでいるから、「粉炮考」は天保一三年か一四年の著であろう。粉炮とは火繩にたいして「雷粉を以て発火する銃砲」の意で、彼が付けたものである。オランダ書訳ではない。彼は猛水（発煙硝酸）一〇匁、有凍（アルコール）一〇匁および上好水銀一匁から雷粉を造っている。

江川太郎左衛門の社中である小山杉溪はオランダ銃取扱書を嘉永三年（一八五〇年）、「雷撃銃略記」として訳出した。また江川は松代藩士片井宗助をして雷管銃（玉目二匁八分、ゲウエル）を嘉永年間に作らしめている。江川は雷永から雷粉に硝石を混じて完全な雷管を作つた。すでに雷管銃用の雷管は舶載していたが、日本では湿気を帯びて用をなさなかつたのである。

島津斉彬は嘉永四年八月、製鍊銃を設けた。

いつ頃う佐賀藩では嘉永年度で雷管銃のことを知らなかつた。安政元年七月一二日、スームピング艦を

見てドンドル銃（旧燧石銃改良のもの）を知り購入している。安政以後は各藩とも大量に雷管銃を輸入した。長州藩では中島治平によって文久三年に舎密局が開設された。

本稿での博士の結論は次の如くである。

「一、 日本での研究は吉雄常三が最初である。

二、 吉雄家は化学を伝えていた。

三、 兵器文化は西国大藩より伝流したと考えられるが、雷汞の研究のごとき基礎科学は長崎より直ちに

江戸に伝わった。

四、 西国大名は先見と熱心を有していたが、幕府は西欧文化の種をむしろ消極的な態度を以って遇した。」

「鉄砲伝来説の検討」 昭和八年五月「史学」第一二巻第二号

三田史学会の会誌に掲載のもので、三月五日に脱稿されている。

「鉄砲が葡萄牙人の手により我国に伝来せしものたることは、事新らしく論ずる迄もないことである。然し古来この画期的な事件に関し世の注意と興味とを喚起したることは吾人の想像以上であって、種々の神秘的伝説や浮説やが普く俗間に伝られて来たことに鑑るも蓋し思ひ半に過ぐるものがある。而して今日に及んで史学の研究者を迷はしむるものがあることは甚だ遺憾とするところである。されば此等の雑説を検討し整理せんと欲して本文を草した所以である。」

博士は、僧南浦文之玄昌師の「鉄砲記」（この書物は南浦師が古老の言や伝説から出来事後七〇年後に書かれたものであるが）とガルウノの記録、この記録は彼の死（一五五〇年一天文一〇年）後友人によつて出版されたもの、とにおいて次の共通点があることを指摘され、鉄砲伝来の年を天文一二年とされている。

共通点とはつぎの点である。

「一、鉄砲記に三人の賈胡の長と記せるは三人の葡萄牙人に吻合する。

二、鉄砲記に二人の名を記して居るものは三人の中二人の葡萄牙人の名と発音が似て居る。

Antonio da Mota 喜利志多佗孟太

Francisco Zeiloto 牟良叔舍

Antonio Pexoto (鉄砲記に名を記せず)

三、三人の漂着せし島は北緯三十二度の島と記せるが、種子島の西村は北緯三〇度四四分である。」

ガルヴノの記録はわずか二〇行たらずに過ぎないが、「然し他に史料の発見せられざる今日、即ち右両書が我国の文献としては唯一のものであり、欧羅巴の文献としても信頼し得べき唯一のものである限りは、この両者の吻合を偶然のこととはどうしても考へられない。即ち同一のことを記した記事であろうと推定する方が之を否定するよりもより自然であると信ずるのである。」と結論づけられている。

またこの論文には次の異説が記載されている。

異説の一 メンデス・ピントの記事 博士の見解は、「余は上述せる如くピントの第一回日本訪問鉄砲伝来記事は信ずべからざるものと断定するのである。」

異説の二 雑説 「我国の文献に頭はれて居る幾多の鉄砲伝来説には信ずべからざるものが多い。」第一種は元軍が文祿役で将来したという記述、第二種は神秘的なものとした説、第三種は南蛮人の臣友鍛冶への伝来、第四種は甲陽軍鑑の説、などである。

異説の三 長沼賢海博士の天文一二年より前に銅製手銃が伝来したという説で、博士はひとつの憶測だとされてゐる。

異説の四 ヤソ会士日本通信上巻に記載の石火矢とあるは燧打石の誤訳ではないか。

異説の五 ピントの記事にある大友宗隣の大砲について、鹿児島の大砲に於いて、鹿兒島の磯邸にあるポルトガル製の大砲は天正年間大友軍より鹵獲したもの、「全く牽強附会の伝説である。」三六頁

「根来寺と鉄砲」 昭和八年八月「史学雑誌」四四編第八号

博士が退役後師事された辻善之助博士の指導で、東京大学文学部史料編纂所内史学会刊行の会誌に発表されたものである。

「鉄砲がポルトガル人の手から種子島に伝はり、更に国内に伝播された経路を考察する上に於て、紀州の根来寺に将来された事実は最も重要な意義を持って居ると考へられる。南浦文集の鉄砲記に「紀州根来寺に杉坊某公ナル者アリ千里ヲ遠シトセズシテ我ニ鉄砲ヲ求メンコトヲ欲ス 時堯人ノ之ヲ求ムルコト深キニ感シ其心ニ之ヲ解ケテ曰ク」とある。」

津田監物は根来寺の一代表者として対明貿易、対琉球貿易もしくは勸進のため種子島に来ていたのである。と博士は反証しておられる。そして、鉄砲由緒書、武術流祖録、本朝武芸小伝の記述にある監物の「留ること十余年」が正しいとみておられ、杉坊某公なるものは実体の人物に非ずして、たまたま鉄砲の伝来に遭遇した津田監物が根来寺杉之坊の名をもって時堯に鉄砲を懇望したのだ、とされている。

津田監物はこれを携え天文一三年三月、紀州に帰つた。早速、門前町である坂本に任んでいた堺出身の芝辻清右衛門という鍛冶を呼び、鉄砲を模造せしめた。「紀州及摂泉方面へ鉄砲が流布したのも、其源流は根来寺であろうと思考する。されば根来寺の僧兵が隣国に勇を奮ひ、政治的にも巖然たる一大勢力となつたのは鉄砲の威力、砲術の精妙に依るものと考へて差支ないと思ふ。」

天正一三年（一五八五）三月二日、秀吉は一〇万の大軍で根来寺を囲んだ。監物はこの頃、五千人の行人衆の軍事人の統卒者であり、根来寺一山の俗権の方面の首脳者であり、見事を討死を遂げている。「大治五年（一一三〇）の建立に係る多宝塔が兵火を免がれて現存して居る。而して其扉や柱等に天正一三年の最後の戦斗に放たれた鉄砲の弾痕が点々として残って居て今尚之を指摘することが出来る。」

長子津田監物等正、次子自由齊はともに津田流砲術を伝えた。

「江戸時代の銃砲」 昭和八年一〇月

東京科学博物館が編集刊行した「江戸時代の科学」に所収されているもので、和算、天文曆術、本草及博物学、医学及医術、地理、鉱業と地質、電気、印刷と写真、鉄道造船建築と並んで、その第八章を成しているものである。所用三五頁。

「明治時代の西洋文明眩惑期を通過した現代の日本人は自己の科学的能力に就て自信を失って居る。少くも正当なる自己認識を欠いて居ると思はれる。江戸時代に於ては全く西洋人の力を借らずして西洋文明特に近代科学を採り容れたのであった。而して科学先覚者の行った業績を見ると、それは総て発明発見の苦心と努力とであった。のみならず往々にして超凡の天才を輩出し、決して西洋にも劣らない業績を残して居るものがある。」

次に各章の題名およびその内容のあらましを紹介する。

鉄砲の伝来 ポルトガルの記録によれば、一五四二（天文十一年）に三名のポルトガル人がシャムのドドラという港を支那のジャンクに乗つて出帆し、北緯三二度の島に漂着した。我国の記録、南浦文集鉄砲記によれば、天文一二年（一五四三）八月二五日、何処の国のもとも知れぬ一隻の大船が大隅国種子島西村小

浦に入港した。

鉄砲の模造と改良　ピントの記録によれば、彼の日本滞在五ヶ月半の間に日本人は六〇〇丁の鉄砲を作った。ヤソ会士も同様に日本人が多数の銃を持って居ったことに驚いている。「この理由は全く我邦に古くから：：奈良朝頃から、特に急速の発達を遂げた刀鍛冶の技術の進歩して居ったことに基因するものである。」そして「天文以後日本人が改良したる主なる点は、

一、口径及長さを減じて軽便なものと為したること。

二、火挾用弾機に単筒な型式、所謂外記流カラクリを採用したること。

等であった。」

棒火矢の出現　棒火矢の術は天和寛永の頃、播州三木の人、三木茂太夫に始まったと伝えられている。

撃発銃の發明　約二百数十年間何等の進歩を示さなかつた鉄砲は、文化文政の頃初めて革命的進歩を為すの機運に達した。久米栄左衛門通賢の撃発発火機と吉雄常三の雷管銃の發明による。

元込銃の發明　「安政年間に盛んに輸入せられたゲウェールは先込の銃であつた。然るにこの時期に江戸時代の最後を飾る一大發明が出現したのである。それは佐久間象山の所謂迅発撃銃と称したものである。これは先に象山と共に江川太郎衛門の塾に入門した松代藩士片井京助の發明に係るもので、安政三年一二月二八日此の新發明の銃を真田侯に試し賞与を受けたと伝えられて居る。：：元込銃は片井の發明後一〇ケ年の年月を経て漸く慶応二年（一八六六）に至り初めて輸入せられたのである。」

大砲の発達　江戸時代では、大筒と称した百目玉筒以上の銃と石火矢と称した一貫目玉以上の大砲とがあつた。石火矢の伝来は天文年間、ポルトガル船による大友宗隆への贈呈が最初である。信長は元龜二年国友鉄砲鍛冶をして二門の二百目玉筒（長さ九尺）を製作せしめた。また石山攻略のとき戦船七艘、三門の大砲

を使用している。秀吉は大砲を顧みなかったため、朝鮮征伐でたった一隻の亀船の大砲のために悩まされた。しかし慶長役では石火矢船をもって行き勝っている。家康は大砲を重視した。島原の乱には平戸にあったオランダ人の協力を得て臼砲を攻城に使った。その後約二〇〇年間、大砲は慶安（一六四九）薩藩で鑄造された以外に造られなかった。

副発台と如意台の發明 副発台は坂本天山の、如意台は佐藤信淵の發明にかかわる砲架で、大砲の着弾範圍の拡大が可能となった。

反射炉の築設 「砲架が完成した暁に問題となったのは再び砲身の製作に関することであつた。元來和銃の鉄砲鑄冶では一〇貫目玉（口径一八二耗）以上の砲を造ることは不可能とされて居つた。また当時五貫目玉以上の砲を製作し得る技術を持った鑄冶は余り多くなかつた。」かくて洋式反射炉による鉄製火砲の鑄造が各藩によって始められた。

「幕末に於ける銃砲の輸入に就て」 昭和一〇年三月

「渥知会講演録」第四九輯

有馬博士のメモに書いてある論文名で、残念ながら未だその本文を見出せない。

「海軍造兵史」 昭和一〇年一月二月

有馬博士が国学院大学で歴史学を了えられてから、海軍造兵史編纂事務囑託となられ、九二ヶ年を替やしてまとめられたものである。正本は終戦後アメリカ本国に持ち帰られたがのち返還されたと聞くと、博士が防衛庁での講演会で述べておられる。しかし未だ発見されていない。僅かに博士の手許に残されていた予備

本により、昭和四三年発刊の「銃砲史研究」に一部が要約発表されている。

ここでは鏡部の全文を掲載するに止める。

昭和十年十二月二十六日

海軍造兵史編纂事務囑託 有馬成甫

海軍艦政本部長 中村良三殿

報告提出ノ件

去ル昭和九年一月一日海軍造兵史（主トシテ砲煩、製鋼、火薬）編纂ノ囑託ヲ受ケテ以来起稿並ニ蒐集シタル資料ヲ左記ノ如ク編纂致候ニ付提出候也

但シ期日等ノ關係上充分ノ推稿ヲ儘サザル儘提出スルノ已ムヲ得ザリシモノニ有之候

記

海軍造兵史（砲煩、製鋼、火薬ノ部）五部

但正本各部副本四部（原稿ノ儘提出セル分ハ副本ニ之ヲ欠ク）

目次

第一編 海軍造兵史要

自慶応三年十月十五日至大正十五年十二月

但シ尚最後の推稿及補修ヲ必要トス

第二編 海軍造兵主要事項記略

但シ多少ノ添削ヲ必要トスルモノアリ

一、敷根火薬製造所始末

- 二、日黒火薬製造所始末
- 三、克式砲ノ採用
- 四、速射砲ノ採用
- 五、海軍兵器會議及海軍技術會議ノ經過（正本二ノ三綴ル）
- 六、海軍大臣西郷從道並ニ海軍次官樺山資紀ノ歐米視察（右同）
- 七、海軍用小銃ノ制定
- 八、信管ノ改良 自海軍創設時至日清戰爭前
- 九、機關砲採用始末
- 一〇、山内閉鎖機及山内砲架ノ採用
- 一一、三十二姆加式砲採用ノ経緯
- 一二、海軍創設時代ニ於ケル製鋼作業（正本二ノ三綴ル）
- 一三、砲種ノ問題
- 一四、「コルダイト」（無煙火薬）ノ採用
- 一五、下瀬火薬製造所沿革
- 一六、仮呉兵器製造所設立經過

「附記」

一、海軍爆彈ノ沿革ニ就テ（極秘）艦政本部第一部編

本記事ハ上記諸編ニ継続スルモノニ非サルモ資料トシテ附添ス（正本二ノ三綴ル）以下同ジ

二、火薬發達ノ大要（秘）大正二年調製（書写真壹枚）

三、施条砲採用以來英巨砲發達ノ史の概観（青写真一枚）「金田中佐作図」

四、海軍砲塔創製ニ關スル記事 卷通

五、三十六糎砲ノ採用ニ就テ 武藤造兵少將稿 卷通

六、砲術及水雷術關係教科書沿革

海軍兵学校編 卷通

第三編 部内造兵各工場沿革誌（但シ未着ノモノアリ）

一、海軍造兵廠沿革誌

二、海軍技術研究所沿革

三、海軍技術研究所電気研究部沿革概要

四、横須賀海軍工廠造兵部沿革（未着）

五、海軍火藥廠沿革（未採訪）

六、海軍火藥廠爆藥部沿革

七、吳海軍工廠砲煩実験部沿革

八、吳海軍工廠砲煩実験部沿革誌

九、兵器交遷参考図（吳工廠砲煩部製図工場ニ於ケル設計作業ノ沿革）

一〇、吳海軍工廠光学工場沿革

一一、吳海軍工廠製鋼部沿革誌

一二、吳海軍工廠水雷部沿革

一三、吳海軍工廠電気部（組織及職員）略史

一四、佐世保海軍工廠造兵部沿革史

「附」一、愛知時計電機株式会社一覽並ニ射撃指揮要具其ノ他兵器製造年表 亨通

編者ハ部外兵器工場沿革ヲ蒐集シ第四編ヲ編纂スル計画ヲ立テタルモ僅カニ本資料ヲ得タルノミナルヲ以テ茲ニ添付ス（正本ニノ三級ル）

（終）

このあと昭和一一年に「軍事史学会」が発足している。

「洪武在銘砲について」 昭和一六年九月

「満蒙」第一六年特輯号

雑誌「満蒙」は南満州鉄道株式会社の調査部が発行していたもので、満州で教鞭をとつておられた博士の実弟黒田源次文学博士が、現地で、明初洪武の銘のある小銅銃を入手されたのを機会に、博士と連名で同誌に発表されたものである。黒田博士は美術史が御専門であった。

洪武十年および洪武十一年の銘のある青銅製筒五門について形式、計測、銘記および伝来を詳記されている。洪武十年（一三三七）は我国では南北朝時代にあたり、洪武銘の砲は世界最古の砲、ハンドガンである。五門の平均寸法は次のとおりである。

口径 二〇耗

外径前端 三〇耗 薬室部 五〇耗

全長 四〇〇耗 薬室長 七〇耗 尾部長 八〇耗

重量 二〇〇〇瓦

「以上実物の上から吾々の知見の範圍に於ける支那の最古の火砲―洪武在銘砲を考究して来た。次で来る問題は是等の火砲は文献の上に如何に現はれておるか、また如何なる名称を以て呼ばれてゐるかといふことである。」

そこで明末の兵書「武備志」ほかに、洪武在銘砲と機構を同じうする火砲が、「単眼銃」「独眼神銃」「一窩蜂」「神鎗」等の名称でしばしば現われていることを述べられ、約三〇年あとの永樂銘銅砲は「神機銃」と呼ばれていたことを記されている。

さらに、一四世紀の歐洲の銃が、「此種の手砲と称せらるるものは、其外型に於ても大きに於ても必ずしも全然同一ではないが、根本型式に於ては上述の洪武在銘砲と甚だよく類似してゐるものと言はなければならぬ。而して其類似の程度と出現の年代の接近とは自ら其淵源するところが両者共通ではないかといふ想像を喚起せしめるものである。然らば両者の根元とは如何。而してその根元より派生したる経路は如何。此興味ある問題は今軽率に空想を以て臆断すべきものではない。」と結ばれている。この結論は昭和三二年の学位論文である「火砲の起原とその伝流」に持ち越されるのである。

本論文には追記があつて、洪武の前の元の時代に火砲―円筒式の―があつたかどうかの点について、恐らくあつたらうとされている。

未
完

明治維新の銃砲戦力の研究 (六)

南 坊 平 造

第三章 全国諸藩銃砲所有数の推定

第五節 全国諸藩小銃所有数の推定

一、諸藩小銃所有数の検討

1. 小銃を左記7種に類別して集計する

	分 類	個 有 名 称 (原表による)
④	先込滑腔銃	ゲベール。雷火銃。馬上筒
⑤	先込施条銃	ミニエー。エンフィールド。スイツッル(マンソウ)。ヤーゲル。ウイトー ス(ウイトール)。その他先込施条銃。
⑥	元込、遊底蝶番式 (活響、莢囊)	スナイドル。コンブレ。アルビニー。レカルツ(リチャード)。 ストーム、グリーン。リンドナー。
⑦	全レバー式(底礎)	レミントン。スタール。シャープス。ビーボデイ。
⑧	全回転式等 (直動、回転鎖門)	ドライゼ(ツンナール、火針式)。シヤスポー。サーヘル(ザウエルバリー レ?)。チントム。ウイルソン(横栓)
⑨	全兵種銃	歩兵銃(元込施条銃を含む)。騎兵銃。砲兵銃。拳銃(ピストル)
⑩	連発銃	¹⁶ / ₁₃ 連発(ヘンリー、ウインチェスター) 7連発(スペンサー) 6連発 (ヤベユ、コルト等)

諸銃の特長、性能については第18表 小銃特性表に示す。

2. 種目別内訳を地方別とし（A～J）藩別にまとめ次表に示す。

第19表 明治3年全国諸藩小銃所在高推定表（A～K表）

A	東海道西部	B	東海道東部	C	東山道西部	D	東山道北部
E	北陸道	F	畿内	G	山陰道	H	山陽道
I	南海道	J	西海道	K	徳川幕府及佐幕諸藩		

3. 原表A、Bの所在数を、種目別に比較検討して、A、B何れかの数（種目相違あるものは合計）を採った。但し対島藩の数は火繩銃を含むものと推定し⁴0.4を乗じた。

4. 石高5万石以上の諸藩は装備率⁹未満の物は100と推定して所在高を計出した。

5. 種目別内訳には、できる限り原表の名称で内訳を示した。

二、原表A、Bに含まれていない徳川幕府および佐幕諸藩の小銃数の推定（第表K）

1. 大砲の場合と全しく、徳川幕府を50万石と見做し、会津、庄内、長岡と共に万石当り小銃所在数を150

（第20表全国平均値に近似）として推算、白河、敦賀は100として計算し内訳は、諸藩の合計内での種目別により計出したが根拠ある数値が出典されれば修正し度い。

2. 諸藩と徳川幕府以下佐幕諸藩の数を合算した総計を次表に示す。

第20表 明治3年全国小銃所在高集計表。

第 18 表 小

種目	名 称	年	略 称	原 産	日 本	型 式
先込滑腔銃	ゲ ベ ー ル 雷 火 銃 馬 上 筒	8 10	カラベイン(騎) ピストル	仏 1770 蘭 1777	秋帆 1832 松代藩等	燧石→雷火
	ミ ニ エ ー	12		1846 仏・蘭・米・ 白・英	1863	雷管外火
先込施条銃	エ ン フ ィ ル ド	103		1853 英・蘭・米		
	マ ン ソ ウ	20	スイツル	1864 スイス		
	ヤ ー ゲ ル	11	獵銃	オランダ	8角銃身	燧→雷火
	ウ イ ト オ ー ス	14		1851~1865 英	6角形	
元込遊底蝶番式	ス ナ イ ト ル	55		英 1864	エンフィールド改	負囊式
	コ ン プ レ ン	47		ベルギー		
	ア ル ビ ニ ー	45		"	萩 鹿兒島 エンフィールド改 元込	活電、雷外
	リ チ ャ ー ド	44	レカルツ	英 1856		
	ス ト ー ム	46		英 1864 米		雷、外
	グ リ ー ン	57		米 1864		
	リ ン ド ナ ー	43	イリオン			雷、外
全レバー式	レ ミ ン ト ン	62		米 1864	上海で装	
	ス タ ー ル	61	単発			雷、外 縁打
	シ ャ ー プ ス	64		米 1846		雷、外
	ビ ー ボ デ ー	71			海軍	
全、 廻 転 式 等	ソ ン ナ ー ル	80	ドライゼ	独 1841		火針、回転
	シ ャ ス ポ ー	82		仏 1866		" "
	サ ウ エ ル、ハリー	100	サーヘル?	独 元込		" "
	マ ン ソ ウ	83		スイス		" "
	テ レ ー	84	テントム?			雷火 "
	ウ イ ル ソ ン	72	横栓	海老尻		直動
連 発 銃	ヘ ン リ ー	77	16/13連	米 1860	世界最初の後装連発縁打	
	ウ イン チェスター	66	16/13連	米 1866	" " "	
	ス ペ ン サ ー	60	元込7連	米 1860		
	陰 倉 銃	103	針打八角	独		
	ヤベユレボルバー	34	ピン打中折6連			
	コルトレボルバー	39		米 1856		
	スターレボルバー	24		米 1856		雷外

諸藩小銃所在高推定表

Cは推定による追加

込		施		兵種別		銃		合計	原表	推定	
全レバー式	全回転式	全回転式	その他	歩兵銃	騎兵 砲兵 拳銃	7連	その他			挺数	万石当り
								8,300	A	8,300	133
○170								4,597	B	4,597	142
	スタール ○(30) 86			(122) 360				(600) 500 (254) 746	B、C	1,100	(100)
				300				936	B	936	113
	○(67) 50							(250) 500 (400) 300	A、C	750	(100)
								750	A	750	135
					ウイターレ 29			(100) 500	A	600	(100)
				98				1,318	A	1,318	264
								491	B	491	98
								350	B	350	100
				40				419	B	419	120
								140	A	140	40
								335	A	335	112
					・20			230	A	230	77
								200	A	200	87
								256	B	256	111
								120	A	120	60
								225	B	225	150
						12		116	A	116	89
								120	A	120	100
				40	・10			210	B	210	191
						20		170	A+B	170	170
							中折 3	83	B	83	83
								90	A	90	90
				20				140	A	140	—
								100	A	100	—
								115	A	115	—
								175	A	175	—
170	233	—	980	59		32	3	(1604) 22532		24,136	125

第 19 表 明治 3 年 全国

A表 東海道 西部

順位	藩 名	領地石高 (万石)	先込滑腔銃		先 込 施 条 銃			元 遊底撃番式	
			ゲベル	その他	ミニエー	エン フィールド	その他 スイツル	スナイドル	その他
1	名 古 屋	62.0			-	8300			
2	津	32.4				2356		2010	コングレツ 61
3	桑 名	11.0			(600) 500				
4	忍 おし(行田)	10.0			(41) 120		0(41) 120	(20) 60	
5	川 越	8.3			537		・99		
6	小 田 原	7.5					・(250) 500		
7	豊 橋(吉田)	7.0					・(333) 250		
8	鉢 山	6.0			750				
9	西 尾	6.0			(100) 500				
10	久 居	5.0			596			363	アルビー 130
11	岡 崎	5.0					・393		
12	犬 山	3.5			350				
13	花房(横須賀)	3.5					・419		
14	長 島	3.0			100				
15	鳥 羽	3.0					・335		
16	重 原	3.0			210				
17	刈 谷	2.3					・200		
18	岩 槻	2.3			185		・11	60	
19	拳 母 ころも	2.0			110			10	
20	神 戸	1.5	100			125			
21	荻 野 山 中	1.3			104				
22	田 原	1.2					・120		
23	菰 野	1.1					・160		
24	西 端	1.0					・90	60	
25	高德(曾我野)	1.0			48			32	
26	西 大 平	1.0			90				
27	半 原	0.6					・120		
28	加 治 山	0.5			100				
29	堀 江	0.3	40				75		
30	六 浦	0.2	37		138				
	合 計	192.5	177		5,379	10,781	3,516	2,615	191
	%				-				

銃 架 施 込

全レバー式		空回転式	兵 種 銃		連 発 銃		合 計	原 表	挺 数	万石当り
0レバント ン 0シャープス	その他 スタール (7) 48	ドライゼ	歩兵銃	○騎兵 ・砲兵 △拳銃	7 連	10/16/13連 (スペンサー)・6連				
		—	500	(7) 48 ・103	212		(420) 3,080	B+C	3,500	(100)
							1,650	A	1,650	150
			ミニ				(330) 620	A+C	950	(100)
			159				791	B	791	99
			スイ				(340) 460	A+C	800	(100)
			(332) 268				(352) 268	A+C	600	(100)
							1,040	B	1,040	208
							336	A	336	70
							300	A	300	75
							217	B	217	72
							320	A	320	128
							150	A	150	75
			20				140	B	140	70
							277	B	277	139
			29		6		881	B	881	440
			ウイルソン				120	B	120	60
			2 △ 5				134	D	134	74
							1,265	A	1,265	790
							100	A	100	63
							175	A	175	109
			スイツッパ				100	A	100	66
			50				222	A	222	171
							85	A	85	71
			41				290	A	290	290
							178	B	178	178
							50	B	50	50
			10				190	B	190	190
							60	A	60	60
			10				100	A	100	100
							60	A	60	60
							60	A	60	60
			13				88	A	88	—
							250	A	250	—
							100	A	100	—
							100	A	100	—
			16				200	A	200	—
—	55	—	1,450	163	218	—	(1422) 1457		15879	128

B表 東海道 東部

				元					
順位	藩名	領地石高	先込滑腔銃		先込施条銃			遊底銃番式	
			ゲベル	その他 馬上筒	ミニエー	エン フィールド	0スイツル その他	スナイドル	その他
1	水戸	35.0					(334) 2,456	(72) 528	
2	佐倉	11.0					835		
3	土浦	9.5			(213) 400		(117) 220		
4	古河	8.0	400		232				
5	鶴舞(浜松)	6.0					(340) 460		
6	柴山(掛川)	5.0							
7	菊間(沼津)	5.0			1,040				
8	関宿	4.8	174		162				
9	長尾(鎌城)	4.0					300		
10	久留里	3.0			117		スイツル 0100		
11	松岡	2.5			200		120		
12	下館	2.0			150				
13	飯野	2.0					120		
14	大多喜	2.0			228		049		
15	岡	2.0					845	1	
16	石岡	2.0					120		
17	結城	1.8		02			125		
18	笠間	1.6	626		239		400		
19	佐貫さぬき	1.6					100		
20	谷田部	1.6					175		
21	鶴牧	1.5					100		
22	一宮	1.3						172	
23	多古	1.2					85		
24	生実おいみ	1.0	105		144				
25	館山	1.0	10				168		
26	龍崎	1.0					50		
27	高岡	1.0	90				90		
28	宍戸	1.0					60		
29	小見川	1.0			90				
30	牛久	1.0			60				
31	下妻	1.0	28		32				
32	小久保	0.4			75				
33	麻生	0.4	50		200				
34	桜井	0.3					100		
35	大綱	0.3			100				
36	志筑	0.2	100		84				
	合計	124.0	1583	2	3766	-	7869	773	-
	%								

込 施 条 銃

全レバー式		全回転式	兵 種 銃		連 発 銃		台 計	原 表	推 定	
○レミントン ・シャープス	○スタール その他	ドライゼ	歩兵銃	○騎兵銃 ・砲兵銃 △拳銃	7 連 スペンサー	○16/13連 ・6 連 逐発				挺 数
	○101					528	3,454	A	3,454	138
			50	○ 50	50		1,150	A	1,150	117
			1	○ 134 △ 14	189		2,161	B	2,161	216
			250				2,325	A	2,325	235
			(10) 81				(89) 731	A+C	820	(100)
			10	馬上 △ 27			1,217	A	1,217	205
			65				876	A	876	146
			697	△ 50			1,867	A	1,867	311
				△ 10			603	A	603	114
					50	ウインチェスター 120	570	A	570	119
							240	A	240	69
							200	A	200	60
							210	A	210	66
							350	A	350	117
							150	A	150	150
			122				347	B	347	116
			40	馬上 20			458	A	458	155
							250	A	250	104
							80	B	80	35
				• 14	15		122	A	122	61
							300	A	300	150
							210	B	210	105
							120	B	120	63
							120	A	120	67
			80				380	A	380	224
			スイス 200				375	A	375	250
							150	A	150	100
			28		6		157	A	157	121
							120	A	120	92
							80	A	80	80
			100				100	A	100	100
							145	A	145	145
							103	A	103	—
							191	A	191	—
							100	A	100	—
—	101	—	1,734	319	310	648	(89) 20012		90,101	

C表 東 山 道 西 部

元

順位	藩 名	領地石高 (万石)	先込滑腔銃		先 込 施 条 銃			遊底藥番式	
			ゲベル	その他	ミニエー	エン フィールド	〇スィツ ・その他	スナイドル	その他
1	彦 根	25.0			2825				
2	前 橋	18.0			300	700			
3	大 垣	10.0					〇117 ・1706		
4	松 代	10.0		雷火銃 650	1425				
5	高 崎	8.2					(79) 650		
6	膳 所 せぜ	6.0	50		1120			10	
7	松 本	6.0	70		23		〇78 640		
8	館 林	6.0					1120		
9	上 田	5.3	132			461			
10	郡 上ぐじょう	4.8			200			200	
11	沼 田	3.5	40				・200		
12	高 速	3.3					・200		
13	加 納(岐阜)	3.2					・210		
14	高 島(諏訪)	3.0					・350		
15	安 中	3.0			150				
16	岩 邑	3.0			225				
17	高 須	3.0			398				
18	水 口	2.5					・250		
19	山 上	2.3					・80		
20	伊 勢 崎	2.0			53		〇40		
21	飯 山	2.0			300				
22	大 溝	2.0	25		185				
23	茂 木	1.9					・120		
24	西 大 路	1.8					・120		
25	飯 田	1.7				300			
26	小 諸こもろ	1.5				70	・80	25	
27	岩 村 田	1.5	50				・100		
28	野 邨	1.3					・123		
29	宮 川	1.3	50		40		〇30		
30	高 富	1.0	30		50				
31	須 坂	1.0							
32	苗 木	1.0	1				・144		
33	三 上	0.5					・80	23	
34	今 尾	0.5	24			167			
35	龍 岡	0.5				100			
	合 計	147.6	472	650	7294	1798	6517	258	-
	%								

込 施 条 銃

全レバー式		全回轉式	兵 種 銃		連 発 銃		台 計	原 表	推 定	
レミントン ・シャープス	スタール ・その他	ドライゼ ・ススポー	歩兵銃	騎兵 ・砲兵 △ 騎銃	7 連 スベンサ	16/13連 ・6 連				挺 数
				○ 28 △ 6			(2416) 3844	A+B	6260	(100)
	○ 98	○ 85	250			○ 1	10516 (1700) 300	B	10516	505
					(40) 60		(540) 960	A+C	1500	(100)
							1900 (940) 60	A	1900	158
				(75) 50			(600) 400	A+C	1000	(100)
							(735) 65	A+C	800	(100)
							(195) 607	A+B	800	(100)
							750 (240) 360	A	750	114
			80				480 (200) 500	A+C	600	(100)
							50	A	50	17
							806	A	806	269
			60				350	A	350	117
			25				225	A	225	75
							180	A	180	60
			54				414	A	414	138
	○ 70					10	150	A	150	75
							350	A	350	175
							150	A	150	75
			55	○ 28			123	B	123	62
							148	A	148	74
			6	△ 3			655	B	655	328
○ 100					100		600	A	600	333
			90		20		160	A	160	100
							60	A	60	40
							80	B	80	73
			150				185	B	185	168
			10				71	B	71	71
							100	A	100	100
							60	A	60	60
					30		382	A	382	382
	○ 10						192	A	192	192
							70	A	70	70
							80	A	80	—
100	178	85	905	65	260	1	(7564) 26185		33747	146

D表 東 山 道 北 部

元

順位	藩 名	領地石高 (万石)	先込清銃銃		先込砲銃			遊底燧番式	
			ゲベル	その他	ミニエー	エジ フィルド	オーバー その他	スナイドル	その他
1	仙 台	62.6					(2416) 3844		
2	秋田(久保田)	20.6	3104		947	5872	0 20 40	65	
3	盛岡(南部)	20.0	(567) 100				(1133) 200		
4	米 沢	15.0			(500) 900				
5	大 泉	12.0					1900		
6	二 本 松	10.1			(940) 60				
7	弘 前(津軽)	10.0					(525) 350		
8	棚 倉	8.0					(735) 65		
9	新 庄	6.8	(18) 57		(175) 550				
10	宇 都 宮	6.6			750				
11	相 馬(中村)	6.0					(240) 360		
12	三 春	5.0					400		
13	山 形	5.0	(33) 100				(167) 200		
14	平	3.0				50			
15	館	3.0			806				
16	上 山	3.0			290				
17	鳥 山	3.0			200				
18	一 閉	3.0			180				
19	壬 生	3.0			360				
20	守 山	2.0			70				
21	八 戸	2.0			350				
22	龜 田	2.0					150		
23	泉	2.0					40		
24	天 童	2.0			148				
25	本 庄	2.0	171		475				
26	黒 羽	1.8			400				
27	佐 野	1.6			50				
28	湯長谷ゆはせ	1.5					60		
29	足 利	1.1							ストーム 80
30	大 田 原	1.1	35						
31	吹 上	1.0			61				
32	喜 連 川	1.0					100		
33	七 戸	1.0					60		
34	無 石	1.0	59		68	225			
35	矢 島	1.0	78		94			10	
36	岩 崎	1.0					70		
37	七 日 市	0.2			80				
	合 計	231.3	4,322	—	8,454	6,147	15075	75	80
	%								

込 施 条 銃										
全レバー式		全回轉式	兵 種 銃		連 発 銃		合 計	原 表	推 定	
○レミントン ○シャープス	○スタール ○その他	○ドライブ ○その他	歩兵銃	○騎兵銃 ○砲兵銃 △拳銃	7連発 スベンサー	○16連 ○13連 ○6連				挺 数
0680							10,634	A+B	10,634	104
			136				3,026	A	3,026	95
				• 12			2,321	B	2,321	155
			58	○ 43	4	• 9	1,984	A	1,984	191
							1,315	B	1,315	132
							980	A	980	98
							2,000	A	2,000	200
							(77) 423	B+C	500	(100)
							(390) 110	A+C	500	(100)
							449	B	449	112
							450	A	450	112
							595	A	595	198
							200	A	200	87
			61				311	B	311	156
			60				140	A	140	145
				○ 61			152	B	152	152
			2	△ 9			315	B	315	315
			8				118	A	118	118
							80	A	80	80
							110	A	110	110
							10	B	10	10
			50				50	A	50	—
680	—	—	375	189	4	9	(467) 15,773		26,240	118

表 北 陸 道

順位	藩 名	領地石高 (万石)	先込滑腔銃		先込施条銃			元 遊底禁番式	
			ゲベール	その他	ミニエー	エン フィールド	その他	スナイドル	その他
1	金 沢	10.23				10,000	570		
2	福 井	32.0				2,210			
3	高 田	15.0	135		2,144			30	
4	小 浜	10.4	381		1,330		273		
5	富 山	10.0					1,200	1	
6	大 聖 寺	10.0				980			
7	新 発 田 しばた	10.0					2,000		
8	丸 岡	5.0							レカルツ (77) 423
9	村 上	5.0			(390) 110				
10	大 野	4.0			363		10	76	
11	鯖 江	4.0			450				
12	村 松	3.0			595				
13	勝 山	2.3			200				
14	与 枝	2.0					250		
15	峯 岡	1.1					80		
16	石 川	1.0					91		
17	清 崎	1.0		雷撃銃 6			298		
18	椎 谷	1.0	69		30		11		
19	黒 川	1.0			80				
20	三 日 市	1.0					110		
21	柏 崎	1.0					10		
22	鞠 山	0.9							
	合 計	22.30	585	6	5,692	13,190	4,903	107	500
	%								

込 施 条 銃

全レバー式		全回転式	兵 種 銃		連 発 銃		合 計	原 表	推 定	
○レミントン ○シャープス	○スタール その他	○ドライブ ○ジャスパー	歩兵銃	○騎兵 ○砲兵 △泰銃	7 連 スペンサー	○16/13連 ○6連				挺 数
			270				1,470	A	1,470	98
							(388) 612	A+C	1,000	60
							800	A	800	151
							160	A	160	40
							480	A	480	133
			10	○ 40		○ 10	362	B	362	100
							200	A	200	80
	○ 48					48	251	A	251	228
							140	B	140	140
							183	B	183	183
			60				60	A	60	60
							109	B	109	109
							100	A	100	100
			24				187	B	187	—
							150	A	150	—
							100	A	100	—
—	48	—	364	40	48	10	(388) 5,364		5,752	111

F表 畿 内

順位	藩 名	領地石高 (万石)	先込滑腔銃		先込施条銃			元 遊底兼番式	
			ゲベル	その他	ミニエー	エン フィルド	ロヤゲル その他	スナイドル	その他
1	郡 山	15.0					・1200		
2	淀	10.2					・(388) ・612		
3	岸 和 田	53					・800		
4	尼 崎	4.0						160	
5	三 田	3.6	120					360	
6	高 槻	3.6					・302		
7	高 取	2.5			200				
8	小 泉	1.1	35		120				
9	柳 本	1.0					・140		
10	芝 村	1.0					・183		
11	丹 南	1.0							
12	田 原 本	1.0					・109		
13	麻 田	1.0					・100		
14	伯 太	0.6	47		116				
15	柳 生	0.6			150				
16	楠 羅 くら	0.5			100				
	合 計	52.0	202	—	686	—	3834	520	—
	%								

込 施 条 銃

全レバー式		全回転式	兵 種 銃		連 発 銃		合 計	原 表	推 定	
○レミントン ・シャープス	○スタール ・その他	○ドライブ ・シャスポー	歩兵銃	○騎兵 ・砲兵 △拳銃	7 連 スペンサー	○16/13連 ・6 連			挺 数	万円当り
							(550) 2,700	A+C	3,250	100
			914	○ 38 ・ 213 △ 44			3,422	B	3,422	184
							(100) 600	B+C	700	(100)
			880				880	A	880	147
			433	○ 20 △ 20			715	B	715	143
							350	A	350	81
							246	A	246	70
							560	A	560	175
							200	A	200	67
							350	A	350	117
							724	A	724	268
					20		380	A	380	181
							200	A	200	125
							125	A	125	83
							80	A	80	73
							100	A	100	91
							130	A	130	130
							150	A	150	150
			2,227	335	20	-	(650) 11,912		12,562	128

G表 山 陰 道

							元			
順位	藩 名	領地石高 (万石)	先込滑腔銃		先込細条銃			遊底躰番式		
			ゲベル	その他	ミニエー	エン フィルド	オーバーゲル その他	スナイドル	その他	
1	鳥 取	32.5					・ 550 ・ 2700			
2	松 江	18.6					0 ・ 2211	1		
3	宮 津	7.0			(100) 600					
4	篠 山	6.0								
5	龜 山(龜岡)	5.0	50				・ 192			
6	津 和 野	4.3					・ 350			
7	舞 鶴	3.5					・ 246			
8	福 知 山	3.2					・ 560			
9	出 石 いづし	3.0				200				
10	広 瀬	3.0					・ 350			
11	園 部	2.7					・ 724			
12	柏 原	2.0	150				・ 210			
13	綾 部	1.6					・ 200			
14	豊 岡	1.5					・ 125			
15	峰 山	1.1			80					
16	邨 岡むらおか	1.1			100					
17	山 家	1.0			130					
18	母 里 もり	1.0			150					
	合 計	98.1	200	-	1,160	200	8,419	1	-	
	%									

込 施 条 銃

全レバー式		全回転式		兵 種 銃		連 発 銃		合 計	原 表	推 定	
レミントン ジャーフス	スタール その他	ドライブ マスパー	歩兵銃	○騎兵 ・砲兵 △拳銃	7 連 スペンサー	016/13連 ・6 連				銃 数	万 部 均
								4,200	A	4,200	99
		66 ウイルソン サンガ3)				117	0638	24,033	A	24,033	650
			1,050			490		8,326	B	8,326	264
								(564) 936	A + C	1,500	(100)
								1,052	A	1,052	105
								931	A	931	93
				○ 12 △ 3				755	B	755	94
								831	B	831	136
								(200) 400	A + C	600	(100)
				△ 20				860	B	860	169
								(198) 302	B + C	500	(100)
								1,000	A	1,000	200
								260	A	260	63
								100	A	100	37
								300	A	300	120
								200	B	200	87
								500	A	500	250
								173	A	173	96
								400	B	400	267
		サール 280						440	A	440	440
			10					300	A	300	290
			1	○ 1				242	B	242	240
			30					320	A	320	320
		サール 60						175	B	175	175
								175	B	175	175
								305	A	305	305
								300	A	300	—
								300	A	300	—
								260	A	260	—
		サール 300						400	A	400	—
								180	B	180	—
—	—	815	1091	36	607	638	(962) 48,956			49,918	240

日表 山 陽 道

				元					
順位	藩 名	領地石高 (万石)	先込滑腔銃		先込施糸銃			遊底泉番式	
			ゲベル	o馬上筒 ・その他	ミニエー	エン フィールド	ヤーゲル ・その他	スナイドル	oアルビニー その他
1	広 島	42.6					・4,200		
2	山 口	36.9					・19,138	263	レカルツ 3,702
3	岡 山	31.5			6,695		・89		
4	姫 路	15.0			(376) 624			(188) 312	
5	福 山	10.0				1,052			
6	津 山	10.0					・931		
7	明 石	8.0	241				・499		
8	鶴 田	6.1	299			432	・100		
9	岩 国	6.0					・(200) ・400		グリーン 65
10	龍 野	5.1	133		123	519			
11	高 梁	5.0	(77) 117		(121) 185				
12	豊 浦	5.0					・1,000		
13	徳 山	4.1					・260		
14	小 野	2.7					・100		
15	足 守	2.5			300				
16	真 島	2.3			200				
17	赤 穂	2.0					・500		
18	新 見	1.8					・173		
19	三 日 月	1.5	100		300				
20	庭 瀬	1.0	160						
21	浅 見	1.0	190		100				
22	生 板なまいた	1.0					・240		
23	山 崎	1.0	200		90				
24	飾 磨	1.0	51		64				
25	安 志	1.0	50		125				
26	岡 田	1.0	155		30		oヤーゲル 120		
27	鴨 方	0.9					・300		
28	小 月(清末)	0.7					・300		
29	林 田	0.6	50		60		・150		
30	福 本	0.5			100				
31	成 羽	0.4	80				oヤーゲル 100		
	合 計	208.2	1,903	-	9,495	2,003	28,800	763	3,767
	%								

込 施 条 銃

全レバー式		全回転式	兵 種 銃		連 発 銃		合 計	原 表	推 定	
○レミントン ○シャープス	○スタール ○その他	○ドライゼ ○その他	歩兵銃	○騎兵 ○砲兵 △拳銃	7連発 スペンサー	○16/13連 ○6連			挺 数	万石当り
		○3,000					10,886	A	10,886	203
• 4		ウイルソン 282	1,374	○ 51	118		8,233	A	8,234	319
					51		7,128	B	7,128	295
							1,500	A	1,500	100
			80				2,030	A	2,030	169
		○ 10	150	○ 24 • 27			1,120	B	1,120	112
			100				700	A	700	117
			1,500				1,500	A	1,500	288
			150				628	A	628	161
							841	B	841	240
	○140						632	A	632	180
							350	A	350	117
							400	B	400	133
							299	A	299	299
							325	A	325	325
4	140	3,292	3,354	102	169	—	36,572		36,572	214

I表 南 海 道

順位	藩 名	領地石高 (万石)	元						
			先込滑腔銃		先込施条銃			遊底蝶番式	
			ゲベル	その他	ミニエー	エン フィールド	オーバーゲル その他	スナイドル	その他
1	和 歌 山	5.35					•7,886		
2	徳 島	25.8					0.48 •5,491	865	
3	高 知	24.2				7,077			
4	松 山	15.0					•1,500		
5	高 松	12.0					•1,750	200	
6	宇 和 島	10.0	243		646		• 20		
7	大 州	6.0			600				
8	丸 龜	5.2							
9	田 辺	3.9					• 478		
10	新 宮	3.5	384				• 457		
11	今 治(小松)	3.5					• 492		
12	吉 田	3.0					• 350		
13	西 条	3.0					• 400		
14	多 度 津	1.0				299			
15	新 谷	1.0	60				• 265		
	合 計	170.6	687	—	1,246	7,376	19,137	1,065	—
	%								

込 施 条 銃

全レバー式		空回転式		兵 種 銃		連 発 銃		合計	原 表	推 定	
○レミントン ○シャープス	○スタール ○その他 △ベーパー	○ライゼ ○シャボ △ウレン ・153 ○1,584 テント455	歩兵銃	○騎兵 ・砲兵 △拳銃	7 連 スベンサー	○16/13連 ・6 連				挺 数	万石当り
				○ 40	788			22,617 (928) 4,272	B	22,617	293
○ 665		○ 21						6,294	B	6,294	121
○ 489	△ 52 96	○ 28	620	○ 240	1,675	37	6,533 (600) 1,500	A + C	5,200	(100)	
							2,255	A	2,255	150	
○ 76							422	B	422	28	
							1,075	A	1,075	108	
○ (14) 129				○ 1	1		1,080 (72) 658	0.4A B + C	1,080 730	108 71	
							640 (115) 585	A A + C	640 700	91 (100)	
							720	A	720	109	
		△ 74					1,199	B	1,199	193	
		△ 58					1,169	B	1,169	195	
			(23) 16		(2) 1		(356) 244	B	600	(100)	
					42		515	A	515	97	
○ 1,439							500	A	500	98	
							1,439 (150) 350	B A	1,439 500	288 (100)	
○ 74		△ 87				91	2,633	B	2,633	585	
							565	A	565	177	
							380	A	380	127	
							384	A	384	137	
			21				1,204	B	1,204	446	
○ 48					152		400	B	400	148	
				○ 20			360	A	360	144	
○ 20				○ 2			820	B	820	372	
							450	A	450	214	
							400	B	400	200	
							300	A	300	150	
○ 60							460	A	460	354	
							517	A	517	400	
							308	B	308	257	
							120	A	120	—	
3,014	148	2,060	680	303	2,661	137	(2221) 65,568		65,589	168	

J表 西 海 道

順位	藩 名	領地石高 (万石)	先込滑腔銃		先込施条銃			元 遊底集番式		
			ゲベル	馬上筒 その他	ミニエー	エン フィールド	oワイトオース その他		oアルビー その他	
							スナイドル	その他	スナイドル	その他
1	鹿 児 島	77.1				2,822	•17,175			
2	熊 本	54.0					(928) •4,272			
3	福 岡	52.0	975		93	2,746	•17,700 ^{o14}			
4	佐 賀	35.7			222	3,063	•1,770 ヤークル 1	10		
5	久 留 米	21.0				(600) 1,500				
6	小 倉(豊津)	15.0			350	1,905				
7	諫 早	(150)				185		161		
8	中 津	10.0			1,075					
9	巖 原	10.0					•1,080			
10	小 城	7.3				(57) 520	o 1 • (1)			
11	岡 (竹田)	7.0					•640			
12	延 岡	7.0			(115) 585					
13	島 原	6.6			720					
14	平 戸	6.2				1,125				
15	唐津(伊万里)	6.0	520		211	380				
16	神 代	(6.0)		雷銃 (95) 65		(236) 162				
17	蓮 池	5.3				363		o110		
18	夙 肥 おび	5.1			500					
19	白 杵	5.0								
20	秋 月	5.0				(150) 350				
21	柳 河	4.5		o 20		1,810	o 80 • 51	420		
22	杵 築	3.2					• 565			
23	宇 土	3.0					• 380			
24	大 村	2.8				192		192		
25	高鍋(美々津)	2.7		o 9			•1,174			
26	佐 土 原	2.7					• 200			
27	日 出 ひじ	2.5					• 340			
28	人 吉	2.2					• 648	150		
29	府 内(大分)	2.1					• 450			
30	佐 伯	2.0					• 400			
31	鹿 島	2.0				300				
32	蘇	1.3	50		200		• 150			
33	福 江	1.3					• 517			
34	三 池	1.2	93		83	30	o 2	100	110	
35	千 束	0.5					• 120			
	合 計	390.3	1,638	189	4,154	18,496	30,966	1,033		
	%									

施 条 銃			合 計	原 表	推 定	
全回転式	兵 種 銃	連 発 銃			挺	万石当り
計	計	計				
1,650	3,825	1,500	75,000	0	75,000	(150)
92	214	84	4,200	0	4,200	(150)
56	130	51	2,550	0	2,550	(150)
22	51	20	1,000	0	1,000	(100)
26	60	23	1,170	0	1,170	(150)
11	25	10	500	0	500	(100)
1,857	4,305	1,688	84,420	0	84,420	149
(22)	(5.1)	(20)	100.0		100.0	

K表 徳川幕府及佐幕諸藩（原表A、Bに洩れた藩の内5万石以上のもの）

（ ）内数値の仮定による推定値

順位	藩名	領地石高 万石	先込滑腔銃 計	先込施条銃 計	元 込	
					遊底蝶番式 計	全レバー式 計
1	徳川幕府	(500)	3,225	60,451	3,074	1,276
2	会津若松	28	181	3,385	172	71
3	庄内	17	110	2,056	105	43
4	白河	10	43	806	41	17
5	長岡	7.8	50	943	48	20
6	敦賀	5.0	21	403	21	8
	合計	567.8	3,630	68,044	3,461	1,435
	%		(43.)	(80.6)	(4.1)	(1.7)

小統種目別、地方別、所在高要計表

山陰道	山陽道	兩海道	西海道	合	計	幕府	總	計
					%	佐幕		%
18	31	15	35	276		6	282	
98.1	208.2	170.6	390.3	1,837.6		567.8	2,405.4	
200	(77) 1,826	687	1,638	(695) 1,107.4	4.0			
-	-		(95) 065.29	(95) 752	0.3			
200	1,903	687	1,827	1,261.6	4.3	3,630	16,246	4.3
(100) 1,060	(497) 8,998	1,246	(115) 4,039	(3671) 4,365.5	16.2			
200	2,003	7,376	(1043) 1,745.3	(1043) 5,894.8	20.6			
-	-	-	ウイトニズ 97	(41) 678	0.3			
1	220	48	2	291				
(550) 7,869	(200) 28,800	19,089	(929) 29,938	(8736) 117,711	43.5			
9,780	40,718	27,759	53,616	234,774	80.6	68,044	302,818	80.6
1	(185) 575	1,065	1,033	(280) 6,930	2.5			
-	3,702	-	-	(77) 4,125	1.6			
-	グリーン65	-	アルピー 110	446				
1	4,530	1,065	1,143	11,858	4.1	3,461	15,319	4.1
-	-	-	(14) 694	(14) 1,544	0.4			
-	-	140	52	(104) 703	0.3			
-	-	0 4	2,306	96	2,506	1.0		
-	-	144	3,162	4,871	1.7	1,435	6,306	1.7
-	-	3,010	1,633	4,643	1.7			
-	66	-	153	304				
-	673	-	55	728	0.3			
-	76	282	219	577	0.2			
-	815	3,292	2,060	6,252	2.2	1,857	8,109	2.2
2,227	1,091	3,354	(23) 657	(562) 12,598	4.6			
58	13	75	303	972	0.3			
213	-	27	-	(7) 492	0.2			
64	23	-	-	140				
2,562	1,127	3,456	983	14,771	5.1	4,305	19,076	5.1
-	638	-	-	759	0.3			
20	607	169	(2) 2,659	(42) 4,287	1.5			
-	-	-	137	687	0.2			
20	1,245	169	2,798	5,775	2.0	1,688	7,463	2.0
(650)	(962)	-	(2221)	(15367)	53	(84420)	99,787	
1,1912	48,956	36,572	63,368	275,129	94.7	-	275,129	
12,562	49,918	36,572	65,589	290,496	100.0	84,420	374,916	100.0
3.6	1.34	9.0	17.6	100.0		29.0	129.0	
128	240	214	166	158		149	156	

第20表 明治3年 全国諸藩

地方別	東海道		東山道		北陸道	畿内	
	西部	東部	西部	北部			
藩	30	36	35	38	22	16	
領地石高 (万石)	19,250	12,400	14,760	23,130	22,300	5,200	
先込滑腔銃	ゲベール銃 雷火筒 計	177 -	1,583 2	472 650	(618) 3,704	585 6	202 -
	ミニエー エンフィルド スイツル ヤーゲル 先込施条 計	177 (741) 4,638 10,781 (41) 131 -	1,585 (213) 3,553 -	1,122 -	4,322 (1,615) 6,839 -	591 (390) 5,302 13,190 36 -	202 686 -
先込施条銃	先込施条 計	(583) 2,761 19,676	(791) 6,929 11,635	(79) 6,173 15,609	(5216) 7,839 27,676	4,867 23,785	(388) 3,446 4,520
	元込	遊底鑿番式 スナイドルツ アルビニー その他 計	(20) 2,595 -	(72) 701 -	258 -	75 -	107 423
込		全レバー式 レミントン スターブス シャープス ビーボデー 計	170 (97) 136 -	- (7) 48 -	- 101 -	- 178 100 -	680 -
	施	全回転式等 ドライブゼ ンサントム ソウヘルトン ウイ横槍 計	- -	- -	- -	- 85 -	- -
条銃		歩兵銃 騎兵銃 砲兵銃 拳銃 計	(122) 858 59 -	(332) 1,118 (7) 5	(10) 1,724 275 14 30	(75) 830 -	375 149 31 9
	銃	連発銃 16/13連発 7連発 (スヘンサー) 6連発 計	- 32 3 35	- 218 -	120 310 528	1 220 -	- 4 9
合		追加分 C 原表 A、B 計	(1604) 22,532 24,136	(1,422) 14,457 15,879	(89) 20,012 20,101	(7,564) 26,183 33,747	(467) 25,773 26,240
	計	% 万石当り	6.5 125	4.3 128	5.4 136	9.0 146	7.0 118

以上所在諸藩の要計表

順位	小銃挺数	地区	藩名	領地(万石)	万石当り
37	1,500	H	姫路	15.0	(100)
38	1,500	D	米沢	15.0	(100)
39	1,500	I	松山	15.0	100
40	1,500	I	丸龜	5.2	288
41	1,500	J	諫早	15.0	100
42	1,470	F	郡山	15.0	98
43	1,439	J	白杵	5.0	288
44	1,318	A	久居	5.0	264
45	1,315	E	富山	10.0	132
46	1,265	B	笠間	1.6	790
47	1,217	C	膳所	6.0	203
48	1,204	J	高鍋	2.7	446
49	1,199	J	平戸	6.2	193
50	1,170	K	長岡	7.8	(150)
51	1,169	J	唐津	6.0	195
52	1,150	C	前橋	18.0	117
53	1,120	I	宇和島	10.0	112
54	1,100	A	桑名	11.0	100
55	1,080	J	巖原	10.0	108
56	1,075	J	中津	10.0	108
57	1,052	H	福山	10.0	105
58	1,040	B	菊間	5.0	208
59	1,000	A	忍	10.0	(100)
60	1,000	D	二本松	10.1	(100)
61	1,000	D	弘前	10.0	100
62	1,000	F	淀	10.2	90
63	1,000	H	豊浦	5.0	200
64	1,000	K	白河	10.0	(100)

三、全国諸藩 小銃所在高 集計表の考察
 ① 小銃千挺以上所在諸藩の要計
 第21表 小銃千挺以上所在諸藩の要計
 下段に集計表を附けた。又地区Hは山陽道の意。

集	類別	藩数	小銃挺数	万石	万石当り	%
	挺					
計	>10,000	5	143,170	7698	186	38.2
	> 5,000	9	66,790	3684	181	17.8
	> 2,000	18	52,022	3806	137	13.9
	> 1,500	9	14,901	1046	142	4.0
	> 1,000	23	26,383	1946	136	7.8
	> 1,000	220	71,650	5874	122	19.1
	総計	284	374,916	2405.4	156	100.0

第 21 表 小銃千挺

順位	小銃挺数	地区	藩 名	領地(万石)	万石当り
1	75,000	K	徳川幕府	500	(150)
2	24,033	H	山 口	36.9	650
3	22,617	J	鹿 児 島	77.1	293
4	10,886	I	和 歌 山	53.5	203
5	10,634	E	金 沢	102.3	104
6	10,516	D	秋 田	20.6	505
7	9,326	H	岡 山	31.5	264
8	8,300	A	名 古 屋	62.0	133
9	8,234	I	徳 島	25.8	319
10	7,128	I	高 知	24.2	295
11	6,533	J	佐 賀	35.7	180
12	6,294	J	福 岡	52.0	121
13	6,260	D	仙 台	62.6	(100)
14	5,400	J	熊 本	54.0	(100)
15	4,597	A	津	32.4	142
16	4,200	H	広 島	42.6	99
17	4,200	K	会 津	28.0	(150)
18	3,500	B	水 戸	35.0	(100)
19	3,454	C	彦 根	25.0	138
20	3,422	G	松 江	18.6	184
21	3,250	G	鳥 取	32.5	(100)
22	3,026	E	福 井	32.0	95
23	2,633	J	柳 河	4.5	585
24	2,550	K	庄 内	17.0	(150)
25	2,325	C	松 代	10.0	233
26	2,321	E	高 田	15.0	155
27	2,255	J	小 倉	15.0	150
28	2,161	C	大 垣	10.0	216
29	2,100	J	久 留 米	21.0	(100)
30	2,030	I	高 松	12.0	169
31	2,000	E	新 発 田	10.0	200
32	2,000	D	盛 岡	20.0	(100)
33	1,984	E	小 浜	10.1	191
34	1,900	D	大 泉	12.0	158
35	1,867	C	館 林	6.0	311
36	1,650	B	佐 倉	11.0	150

右表によれば五千挺以上の14藩で56.4%を占めているに対し、千挺未満の22藩では19.1%を占めるに過ぎず、その戦力は至って少なかった。

② 小銃の万石当り装備率の要計

2. 小銃の万石当り裝備率の要計

順位	万石当り	地区	番名	地方	行石	順位	万石当り	地区	番名	地方	行石
1	790	B	笠間		1.6	31	264	A	久居		5.0
2	650	H	山口		3.69	32	257	J	三池		1.2
3	585	J	柳河		4.5	33	250	C	小諸		1.5
4	505	D	秋田		20.6	34	250	H	赤穂		2.0
5	446	J	高鍋		2.7	35	240	H	生坂		1.0
6	440	B	岡		2.0	36	240	I	新宮		3.5
7	440	H	庭瀬		1.0	37	233	C	松代		10.0
8	400	J	福江		1.3	38	228	F	小泉		1.1
9	382	D	黒石		1.0	39	224	C	飯田		1.7
10	372	J	人吉		2.2	40	216	C	大垣		10.0
11	354	J	森		1.3	41	214	J	大分		2.1
12	333	D	黒羽		1.8	42	208	B	菊間		5.0
13	328	D	本庄		2.0	43	203	C	鹿所		6.0
14	325	I	新谷		1.0	44	203	I	和歌山		53.5
15	320	H	山崎		1.0	45	200	E	新発田		10.0
16	319	I	徳島		25.8	46	200	H	豊浦		5.0
17	315	E	清崎		1.0	47	200	J	佐伯		2.0
18	311	C	館林		6.0	48	198	E	村松		3.0
19	305	H	岡田		1.0	49	195	J	唐津		6.0
20	299	I	多良津		1.0	50	192	D	矢島		1.0
21	295	I	高知		24.2	51	191	A	孤野		1.1
22	293	J	鹿児島		77.1	52	191	E	小浜		10.4
23	290	B	生実		1.0	53	190	B	高岡		1.0
24	290	H	浅見		1.0	54	184	G	松江		18.6
25	288	J	白杵		5.0	55	183	F	芝村		1.0
26	288	I	丸龜		5.2	56	181	G	柏原		2.0
27	269	D	館		3.0	57	180	I	今治		3.5
28	268	G	園部		2.7	58	180	J	佐賀		35.7
29	267	H	三日月		1.5	59	180	J	平戸		6.2
30	264	H	岡山		31.5	60	178	B	館山		1.0

- (1) 万石当り500挺以上4藩の中に20万石以上の大藩の山口と秋田が含まれている。秋田は藩の実力かどうかには疑問がある。又300挺以上15藩の中に20万石以上の徳島がある。250挺以上の15藩中に、高知、鹿児島、岡山。200挺以上15藩中に和歌山と10万石以上の松江、松代、大垣、新発田が含まれている。180挺以上11藩中に佐賀と小浜が含まれ
- (2) 合計して20万石以上8藩、10万石以上6藩、5万石以上9藩、5万石未満37藩となっている。明治維新の原動力であろう。
- (3) 1万石未満の23藩の装備率は数字を扱ひ上で、意外の高値を出すので計出を見合わせた。
- (4) 小銃の種目別内訳、その他の考察は次号に譲る。

五月例会出席者（敬称略・署名順）

南坊平造	光田福一	奥村正二
森重民造	戸塚芳男	奥田正忠
山田太郎	稲田正純	

◎銃砲史研究投稿規定

- 一、銃砲史に関係するものに限ります。
- 一、原稿枚数 四百字詰二十枚以内
- 一、図および表は簡単なものであること。複雑なものや写真については寄稿者側で用意をお願いします。
- 一、原則として毎月第二土曜日（一月および八月を除く）に開催しますので、希望発表日時をお知らせ下さい。

銃砲史研究 第七〇号
 昭和五十年六月十四日 発行
 銃砲史学会 編集
 東京都渋谷区神南一ノ一
 社団法人 日本ライフル射撃協会内
 頒価 二百円

